

令和 3 年度
学校関係者評価報告書

【評価対象期間】 自：令和 2 年 4 月 1 日
至：令和 3 年 3 月 31 日

学校法人創心会 西日本看護専門学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	2 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	2 -
2. 学校関係者評価委員名簿	2 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	2 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法と評価の仕方	2 -
II. 学校関係者評価委員会の報告	3 -
1. 教育理念・目的・人材育成像	3 -
2. 学校運営	3 -
3. 教育活動	4 -
4. 学修成果	5 -
5. 学生支援	5 -
6. 教育環境	6 -
7. 学生の受け入れ募集	6 -
8. 財務	7 -
9. 法令等の遵守	7 -
10. 社会貢献・地域貢献	8 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的・基本方針

1) 目的

- ① 保護者、卒業生、地域住民、企業関係者、高等学校関係者などの学校関係者が、西日本看護専門学校自己点検・自己評価結果を評価することを通して、自己評価の客観性・透明性を高める。
- ② 学校運営・教育活動の現状と課題について、学校関係者と共通理解を深めて、相互の連携を促し、学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

西日本看護専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員名簿

区分	氏名	所属(役職)
地元企業関係者	川井 伴子	(社医)北九州病院 北九州総合病院 看護部長
高等学校関係者	土田 秀夫	福岡県立京都高等学校 校長
地域住民	柴田 文寿	湯川校区
卒業生	瀧内 正範	北九州総合病院
保護者	下 窄 泉	保護者代表

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

日時：令和3年5月20日(木) 16:30

場所：西日本看護専門学校

※ 本年度の学校関係者評価委員会は、新型コロナウイルス感染の拡大防止のため、書面をもって議決することとした。

4. 学校関係者評価委員会の実施方法、評価の仕方、公表

学校関係者評価委員の皆様、西日本看護専門学校の自己点検・自己評価表を事前に配付し、お目を通していただく。学校関係者評価委員会開催時に、本校から評価項目の説明をし、自己評価結果に対するご意見をいただく。自己点検・自己評価表に基づき、自己評価結果及び課題・改善方策について、次のポイントに留意しながら評価を行った。

- ① 自己評価結果の内容が適切か
- ② 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
- ③ 学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切か

ご意見は、本報告書として取りまとめ、今後の教育活動や学校運営の改善に活かし、教育水準の向上に努めることとし、ホームページに公表いたします。

II. 学校関係者評価委員会の報告

1. 教育理念・目的・人材育成像

学校関係者評価結果:適切

➤ 現状

教育理念に沿った教育目的、教育目標、卒業時の学生像については、学生便覧に明記し、ホームページに公開している。理念に「ひとり、ひとりを大切に心のこもった看護を実践する」を掲げ、目的を「看護の理論と実践を通して、専門職業人としての看護観を育て、優れた知識・技術に基づいて主体的に責任ある看護活動を行い、看護の発展に寄与できるための基礎的能力を修得する」としている。毎年、新入生を迎えるにあたって、学生、保護者等に教育理念、目的、目標、卒業時の学生像について説明を行い、また、オープンキャンパスや学校見学会においては、本校の教育についての周知を図っている。

教育目標は、教育理念、目的と一致し、教育内容を網羅したものになっている。また、卒業生像については、教育目標に対応しており、本校の人材育成像がはっきりと読み取れるものになっている。

今年度から、シラバスに教育理念、目的、目標を掲載し、各講義開始時に関連性を説明している。社会のニーズに向けての将来構想については、在宅医療の発展への方向性に対応できる教育内容である。また、学生のレディネスを把握しながら、社会人基礎力を充実していく教育を実施している。

➤ 学校関係者評価委員会による評価

教育理念・目標等の周知を図っていること、また新カリキュラムに向けて慢性期・回復期病院での実習を組み込み教育内容の充実を図ることについて、高い評価を得た。

➤ 課題・改善策

令和4年度新カリキュラムに向けて、他職種との連携強化について再考していき、急性期病院以外にも慢性期・回復期病院での実習を視野に入れ、検討していく。

2. 学校運営

学校関係者評価結果:適切

➤ 現状

本校は学校法人であり、理事会・評議員会が適切に開催され、学校法人の収支、寄附金の受け入れ、役員・評議員の選任に関する事等、理事会・評議員会にて決定している。

毎月運営会議を開催し、学校運営のすべてを会議にて審議している。教務会議は1週間に1回開催しており、教育に関する内容について協議し、決定している。また、これら会議の運営については、寄附行為及び学則に明記しており、諸規程、学則、細則、内規については、毎年定期的にすべて見直し、整備している。今年度は、私立学校法の法改正に伴い、寄附行為の見直し及び改正がなされた。

教育活動に関する情報は、本校のホームページにて公開しており、定期的に更新している。

各教職員へのパソコンの貸与と共に定期的なメンテナンスを行い、パソコン内に共有データを設け、業務の効率化を図れるよう運用体制を整えている。

➤ 学校関係者評価委員会による評価

諸会議については適正に実施され、教育活動の情報公開が適切に行われていることに評価を得たが、その反面、ホームページでの教育活動の情報、学校新聞等の内容の充実を図るよう意見を得た。

➤ 課題・改善策

学生情報管理システムの構築がされていないのが、今後の検討課題である。

3. 教育活動

学校関係者評価結果:適切

➤ 現状

カリキュラムに関しては、学科、実習すべて教育理念に沿った内容である。理念に沿って看護の心を育てる教育カリキュラムを組んでおり、コミュニケーション技術や人間関係論などの充実、また、看護観を育てるといった特色ある内容となっている。

実習においては、急性期病院での実習が充実している。あらゆるライフステージの人びとを理解するために、病院のみでなく様々な実習場所を確保し、理解を深めていける実習を組んでいる。また、学科、実習ともに実践とそのエビデンスが順序立てて学べるよう、カリキュラムは体系的に編成している。更に、令和4年度新カリキュラムに向けて、慢性期、回復期における実習の充実を図ることを計画している。

今年度、新カリキュラム構築のための参考として、カリキュラムアンケート・学習評価の分析を実施し、現状の把握と課題の洗い出しを行った。講義・実習では、シラバスによる学生への事前の提示、その後の指導の評価アンケートの実施、その結果の振り返りを行い、今後の指導の示唆を得て、次回に活かす一連の過程を実践している。

今年度は、研修で得た情報を効果的に活用し、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、学内での講義・演習・実習の方法を工夫し行った。学内実習においては、臨地実習との相乗効果が図れるよう工夫した。

単位認定については基準を定め、運営会議にて認定審議を実施している。実習に関しては、毎年指導者会議を複数回実施し、病院での指導内容や実習における全体的な評価を頂き、その後の実習指導に反映させている。

看護師国家試験に向けての指導体制については、カリキュラム内容（学科・実習）の充実を図るとともに、1年次後半より対策を実施しており、2年次では模擬試験の実施、3年次においては頻回な模擬試験の実施と個別指導や長期休暇期間における集団指導等を実施している。

教員研修に関しては積極的に推奨しており、今年度においては、新型コロナウイルス感染症予防対策のため対面研修が中止になり、リモートの研修が主となったことにより、研修に参加することができた。特に、新カリキュラム改正の研修は、多くの教員が参加することができた。今年度、計画していた教員養成講習会の受講は、新型コロナウイルス感染拡大により開催が中止となった。

教員2名の退職があったが、教員経験豊富な2名を起用することができた。

➤ 学校関係者評価委員会による評価

他職種の講義を多く取り入れることが必要であると意見を得た。コロナ禍において、工夫された講義・実習が実施されていることに評価を得た。

➤ **課題・改善策**

令和 4 年度改正の新カリキュラムの構築と新人教員の教育現場における支援が今後の課題となる。

4. 学修成果

学校関係者評価結果: やや適切

➤ **現状**

国家試験の合格率・就職率ともに良好であることから、本校の教育水準は一定の水準に達していると言える。

退学については、その原因を追究し、日々指導を振り返り、学生の学校生活への指導に活かしており、退学する学生は少しずつではあるが、減少傾向にある。今年度は 6 名の退学者がおり、その内 4 名が前期での退学となった。新型コロナウイルス感染症予防対策のため、年度前半は自宅学習が多く、学生同士の関係が希薄になったことが、多少影響しているのではないかと推察している。

卒業生の動向については、卒業年の 8 月にホームカミングデイを開催し、卒業生の近況と就職後の動向を情報収集している。また、卒業生が就職した病院に卒業生の近況について尋ね、情報収集をしている。しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ホームカミングデイを中止せざるをえなかった。卒業後の学修成果については、主たる実習病院での指導者会議において、本校の卒業生の現状を情報収集し、分析した結果を演習等に組み込み、キャリア教育の改善を図っている。

➤ **学校関係者評価委員会による評価**

コロナ禍の影響で自宅学習が多くなり、孤独感やストレス等で学習意欲の低下が心配であるとの意見を得た。また、退学者が出ることに對して、入学時に適性があるか審査する必要があるとの意見を得た。

➤ **課題・改善策**

学生生活の環境を整え、学習面、健康面、精神面での細やかな支援をし、退学者の減少を目指す。

5. 学生支援

学校関係者評価結果: やや適切

➤ **現状**

学生の相談体制・経済的支援・健康管理・課外活動に対する支援等は十分整っている。相談体制については、面接計画も整っており、必要時には随時面接を実施している。経済的支援については、奨学金制度や公共職業訓練等の教育訓練などを活用している。さらに令和 2 年度から高等教育修学支援新制度の対象機関となった。なお、アルバイトは禁止し、公的支援給付金を受けられるよう支援を行った。

健康管理については、毎年 5 月に健康診査を実施し、健康管理について個別指導を実施している。また、インフルエンザ予防接種は学校負担で実施し、健康管理についての支援は、校医と協議しながら行っている。今年度からスクールカウンセリング室を開設し、学生の精神的支援を図

っている。新型コロナウイルス感染症予防対策を 1 年間通して計画し、実施した結果を評価し、学生及び教職員が感染することなく、健康に学校生活を過ごしている。

教室・更衣室等の利用方法、サーキュレーターの購入など、生活環境の改善に取り組んだ。

課外活動は 6 つのクラブ活動が充実しており、ストレス発散や学びの場となっているが、今年度は活動を禁止した。保護者とは、学生の学習状況や、生活態度等の問題があるときに連携を取っている。また、年 1 回学生後援会を開催し、情報交換等を実施し、学校の情報公開に努めているが、今年度は書面会議となった。

新型コロナウイルス感染症の影響で、卒業生への支援が十分に行えなかった。

高校・高等専修学校等との連携については、積極的に出向き、キャリア教育・職業教育の取り組みを実施しているが、今年度は高校・高等専修学校等からの要請がなかった。

➤ 学校関係者評価委員会による評価

経済的支援体制が整ったことに対して、高い評価を得た。また、スクールカウンセリングの利用率や退学者の早期カウンセリングの利用有無についての質問があった。

➤ 課題・改善策

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、十分な支援が行えなかったが、感染症の社会的拡大を見据えながら、学生支援を拡充していくことが課題である。

6. 教育環境

学校関係者評価結果: やや適切

➤ 現状

施設・設備・教育備品等については、定期的に点検し修繕、整備している。また、実習施設においては、教育環境について実習先と調整し、環境を整えていただいている。新型コロナウイルス感染症の影響により、学び方の変化が進んでいるため、DVD 教材等を整備し、効果的に活用できるような環境整備を行った。今年度 Wi-Fi 環境を整え、オンライン授業を早期に導入することができた。また、感染症対策における講義・実習の変更に柔軟に対応することができた。

令和 3 年度は、情報処理室の PC の台数を増やし、全てニューモデルでの入替を計画している。

防災訓練を毎年 1 回必ず実施しているが、充実した訓練を実施しているのは火災訓練のみである。

➤ 学校関係者評価委員会による評価

防災に対し、早急に対策を講じるよう意見を得た。

➤ 課題・改善策

防災について、今後はあらゆる災害を見越した訓練が必要であり、早急に検討する必要がある。

7. 学生の受け入れ募集

学校関係者評価結果: 適切

➤ 現状

令和 2 年度学生募集については、個別学校見学会の実施、ホームページに情報公開、学校案内・学生募集要項の配布、進学相談会の参加を行った。新型コロナウイルス感染症拡大のため、高等学校の訪問は行わず、電話にて学生募集を実施した。個別学校見学会、入学選考に際し、新型コ

コロナウイルス感染症予防対策を講じ、実施した。令和3年度入学選考において、例年と比較すると受験者数の減少が見られた。令和2年度入学選考の際、高等学校より面接時の質問内容についてご指摘があったため、面接時の質問に対して再度確認をし、適切に実施した。

➤ **学校関係者評価委員会による評価**

少子化、看護大学の競争等、学生募集について十分に検討し、自然災害の発生、2025年問題等、今後看護師不足が必至であるため、看護師を積極的に推奨していただきたいとの意見を得た。

➤ **課題・改善策**

18歳人口が減少する中、入学者確保のための有効な方策を検討していく必要がある。

8. 財務

学校関係者評価結果：適切

➤ **現状**

ホームページに公開の財務諸表のとおり、学校の財政基盤は安定している。今後も学生数の確保を図り、継続して中期的な財政基盤の安定に努めていく。事業年度開始に当たって作成する予算について、教育機器・教材の購入を年間の予算に計上し、計画的・優先的に購入し、予算の編成及び執行は適正に実施している。監査の実施については、私立学校法及び寄附行為に基づき、監事による会計監査が適切に行われている。財務情報は、事務局に決算書類等の帳票を備え付けるとともに、ホームページに公開している。

➤ **学校関係者評価委員会による評価**

財政基盤の安定について、高い評価を得ている。

➤ **課題・改善策**

今後も現状を継続させ、財政基盤の安定に努めていく。

9. 法令等の遵守

学校関係者評価結果：適切

➤ **現状**

保健師助産師看護師学校養成所指定規則、専修学校設置基準・看護師養成所の運営に関する指導ガイドラインの遵守と適正な運営を実施している。また、個人情報保護、ハラスメント防止等、規程を整備し、対策をとっている。

自己評価の実施は、自己点検・自己評価の委員を組織し、毎年実施しており、教職員全員が把握し、周知するよう指導している。自己評価結果については、ホームページに公開している。

➤ **学校関係者評価委員会による評価**

法令に基づき、適正に運営されていることに高い評価を得た。

➤ **課題・改善策**

今後も法令を遵守し、感染予防対策や新カリキュラムの改正について、所轄庁に確認しながら進行していく。

10. 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果:不適切

➤ 現状

卒業生、医療従事者への図書室の開放、地域の講演等に本校の施設を開放するなど、学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている。また、学生のボランティア活動を奨励、支援しているが、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、活動することができなかった。

福岡県専任教員養成講習会の講義・演習を引き受け、看護教員の育成に携わっている。

➤ 学校関係者評価委員会による評価

社会貢献・地域貢献の活動に対し、3密を避けることが重要である。

市民センターなどで、本校のPRを兼ね、教員・学生による健康講座を設けてほしいとの意見を得た。

➤ 課題・改善策

コロナ禍において、本校が取り組める社会貢献・地域貢献の在り方を検討し、新しい取り組み体制を整えることが課題である。